

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：府中町

1 要旨

府中町の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたり、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、府中町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林	里山林の手入れ不足により景観が悪化している。	里山林の放置により景観が悪化しているため、遊歩道沿いの里山林整備が課題となっている。	里山林の放置により景観悪化が懸念されることから、健全な里山林へ誘導し、地域住民等が景観の美しい森林を享受することのできる里山林を目指す。	景観悪化が顕著であり、人の目に触れる機会が多いなど、景観向上の成果が上がる区域をから重点的に実施する。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制 森林整備を行う者 （森林ボランティア団体） みくまりの森サポートクラブ 森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	森づくり事業を活用する森林ボランティア団体「みくまりの森サポートクラブ」の会員は、高齢者がほとんどであるため、常に会員の募集を続けている。新会員に対して安全指導を徹底するために研修等を頻繁に実施する必要があるため、森づくり事業を活用して活動を継続したい旨の要望が強い。	休日のみ又は草刈りのみ参加するなど、性別や世代に関わらず森林ボランティアとして参加する人がおり、町内の森林全域をカバーできるほどの森林ボランティアが存在する。	里山保全活用支援事業を活用し、ボランティア団体活動の維持と組織の活性化を図り持続的・永続的な活動のできる団体になるよう促していく。
取組への理解促進 参加拡大による理解促進 事業の理解	ひろしまの森づくり県民税による事業が、どのように展開され、どのような効果に資しているか住民に周知できていない。	住民が森づくり県民税の使途や効果、実績を理解している。	県と連携し、町広報誌を活用し事業の実績や効果を住民に広く発信する。 事業実施箇所については、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。 水分峡森林公園内の遊歩道の案内標識に「森づくり県民税はみくまりの森づくりに役立っています。」を記載する。